

聖書箇所：詩篇13篇1-6節

「主よ いつまでですか」

【1】 いつまでですか！-叫び-

・ダビデ

—エッサイの息子の末弟

—イスラエル王国の基礎をつくった2代目の王：華々しい活躍

—荒野の逃亡生活／罪を犯した時の苦悩／息子に裏切られた経験

・三つの苦しみ（詩篇 13 篇）

① 霊的な苦しみ：「…あなたは私を永久にお忘れになるのですか。…いつまで御顔を私からお隠しになるのですか。」（詩篇 13:1）

② 内面的な苦しみ：「いつまで私は自分のたましいのうちに思い悩まなければならないのでしょうか。私の心には一日中 悲しみがあります。」（詩篇 13:2）

③ 環境による苦しみ：「いつまで 敵が私の上におごり高ぶるのですか。」（詩篇 13:2）

▷神との関係、自分の内面、そして環境。ダビデはそのどれにおいても神の臨在や神の助けを覚えることができず、「いつまでですか」と叫んだのでしよう。

【2】 私の神 主！-祈り-

・ダビデが目に向けたもの

・祈り：思い悩みと悲しみからの回復

・「目を注ぎ」、「目を明るくしてください」、「死の眠り」とは

▷苦しみ「いつまでですか」と叫んだダビデ。そこから神を見上げ、神の助けを求めて祈りました。彼は、神が見えず神の介入が感じられない時に「私の神 主」と祈ったのです。

【3】 私は救いを喜びます！-賛美-

・ダビデの口に賛美が

・信仰者ダビデの賛美：神の救いを先取りした喜び

・「あなたの恵み」(ヘド)、「良くしてくださった」(ガ-マル)とは
—変わらぬ真実の愛、おとしめられた者を豊かにされる神の恵み

▷信仰者の叫びは、神への祈りとなり、祈りは神への賛美に展開します。神の恵みに信頼し、主の救いを賛美するものとされますように。

